

令和8年度 新宿区立新宿中学校 学校経営方針

1 教育目標
<p>人間尊重の精神を基に、国際的視野に立った人間性豊かな人を育成する。</p> <p>☆ 自ら学ぶ人</p> <p>☆ たくましく生きる人</p> <p>☆ 地域社会を担う人</p>
2 目指す生徒像
<ul style="list-style-type: none"> ● 目標をもち、向上心を忘れず、主体的に学び続ける生徒 ● 相手を尊重し、感謝の気持ちを忘れず、最後まで責任をもちやり遂げる生徒 ● 地域社会に貢献し、主体的に地域から学ぼうとする生徒
3 目指す学校像
<ul style="list-style-type: none"> ● 安心安全で、厳しさの中にも心温まる活気に満ちあふれた学校 ● 個に応じて能力を伸ばし、感動を与え、自信と誇りをもたせる学校 ● 保護者・地域との連携を深め、信頼に応える学校
4 目指す教職員像
<ul style="list-style-type: none"> ● 「チーム新宿中」の一員として協働できる教職員 ● 使命感をもち、専門性の向上に努める教職員 ● 相手を尊重し、生徒・保護者・地域から信頼される教職員
5 目指す授業像
<ul style="list-style-type: none"> ● 「教える」から「学ぶ」への転換を目指す授業 ● 生徒の問いと意欲を引き出し、自ら学ぼうとする生徒を育成する授業 ● 個別の探求が組み込まれている授業
6 学校経営の基本方針
<ul style="list-style-type: none"> ● 生徒の学力・心・身体をバランスよく育成する。 ● 安全で安心して学べる環境を確保し、生徒・保護者・地域から信頼される学校をつくる。 ● 観察・状況判断・意思決定・実行のサイクル（OODA）で、組織的に学校を運営していく。
7 令和8年度重点取組
<ul style="list-style-type: none"> ① 「教える」から「学ぶ」へ ● 生徒が主語になる授業への転換。生徒が何を学ぶか ② リスペクトが見える学校づくり ● 学校風土づくり。インクルーシブ・国際理解 ③ 自己有用感を高めるキャリア教育 ● 3年間を見通したキャリア教育の整備 ④ 「学び」を継続させる学校づくり ● 組織的な登校支援と多様な学び ⑤ 地域社会との連携 ● 生徒主体の地域参画・地域貢献 ⑥ 組織的なチェック体制の確立 ● OODA サイクルと、組織的な危機管理チェック体制づくり ⑦ 校務のDX化推進 ● 生徒に向き合い、授業改善するための時間創出

学校経営の基本方針に対する具体策

◎生徒の学力・心・身体をバランスよく育成する。

【重点取組①】「教える」から「学ぶ」へ 一斉授業から、生徒自身が学ぶ授業への根本的転換

- 全教科の授業を、生徒自らが学ぶ授業に、意識的に転換する。
- まとめ・振り返り（発表したり、評価し合ったり、身に付いた力を言語化したりする）の活動を重視する。
- ICT を効果的に活用し、生徒一人ひとりの進度に応じた「個別最適な学び」と、他者と意見を交わし深め合う「協働的な学び」を一体的に充実させる。
- 単元ごと（まとめごと）の観点別評価を徹底し、その積み上げで評価を行い、生徒自身が身に付いた力や伸ばしたい領域を把握しやすくする。
- 読書活動を推進し、読解力を高めたり、読書に親しんだりする姿勢を育成する。
- ボランティア等を活用した放課後学習支援を計画的に実施し、基礎学力の向上を図る。
- 新宿区教育ビジョンに即し、漢検・数検・英検などに積極的に取り組ませ、生徒の学習へのモチベーションを高める。

【重点取組②】リスペクトが見える学校づくり 人権尊重を基盤とした、心の育成

- お互いに尊重し合う学校・教室・授業を実現させるために、全教育活動において「リスペクト」の精神を徹底し、言葉・呼称・接遇など、隅々まで配慮した人権感覚を醸成する。
- インクルーシブ教育を充実させ、若草学級と通常学級の交流を計画的に設定する。
- 国際理解教育を充実させ、多様なルーツや文化、言語の違いを尊重する風土を育成する。
- 道徳科授業を充実させ、「考え、議論する道徳」の授業を実践する。
- 生徒会活動・学級での係活動・部活動などの協働作業における自治活動の推進を図り、生徒が自他の特性を認め、お互いに成長できるよう努める。
- 特別支援コーディネーターを中心とした組織的な支援体制を充実させるとともに、「サポートルーム（まなびの教室）」を積極的に活用し特別支援教育の推進を図る。

【重点取組③】自己有用感を高めるキャリア教育

- 探究活動を充実させ、豊かな人間性や価値観の形成及び課題発見や解決能力の育成を図る。
- キャリア教育により自己理解を深めさせ、主体的に進路を選択・判断できる能力を育成する

◎安全で安心して学べる環境を確保し、生徒・保護者・地域から信頼される学校をつくる。

【重点取組④】「学び」を継続させる学校づくり（当面する教育課題への対応）

- 登校支援に組織的に取り組み、安心して過ごせる居場所づくりと気づきづくりに努める。
- 「新宿中はいじめを許さない」という共通認識のもと、いじめが発生した場合は「いじめ対策委員会」を中心とした学校組織として対応する。
- ソーシャルネットワークサービス（SNS）にかかわる課題、薬物乱用防止等、最新の状況を踏まえた適切な指導を行っていく。

【重点取組⑤】地域社会との連携（地域協働学校としての取り組み）

- 地域協働学校として、学校運営や学校評価、学校支援活動についての協議を通し地域・保護者の参画を促し、地域に根ざした教育活動の充実を進める。
- 地域協働運営協議会に、定期的に生徒を参加させることによって、地域運営に貢献する生徒を育成する。
- 生徒が主体的に地域貢献できる仕組みを整え、地域から体験的に学ぶ機会を確保する。
- 学校運営連絡協議会で、学校運営上の課題を共有し、改善に向けた具体的な取組を推進する。

◎ OODA をもとに、全教職員で組織的に学校を運営していく。

【重点取組⑥】組織的なチェック体制の確立 OODA サイクル（観察・状況判断・決定・実行）

- 起こった事象や予想される事象について、複数の目で確実に見取り（観察）、適切な状況判断を迅速に行い、段階に応じた意思決定のプロセスを経たうえで、組織的に実行する（OODA）ことを徹底する。
- 成績や調査書等について、徹底的な確認を行い、ミスを無くす。
- 慣例や思い込みにとらわれず、組織的に学校を運営していく。
- 問題行動には、迅速かつ組織的な対応を徹底する。
- 食物アレルギー等、管理及びチェック体制を遵守し、確認を徹底する。

◆健康な身体の育成

- 全教職員で感染症対策やけが防止に取り組み、安心・安全な教育活動を実践する。
- 保健体育を男女共修とし、バランスよく体を動かすことを学ばせる。
- 運動への関心を高め、生徒会が主体となる有志参加型イベントなどを通じて、「運動の楽しさ」を実感できる機会を創出する。
- バランスのとれた食習慣を身に付けさせる「食育」を推進する。
- 学校安全指導計画に基づいた「安全教育」の充実を図る。

◆チームとしての生徒指導と教職員の協働

- 学校全体で適切な言語環境を整え、教職員が自ら範を示す。
- 提案・実践が主体的に行われるよう「情報の共有」を意識した組織運営を行う。
- リスペクトの精神をもち、生徒への共通理解と共通実践を基本に指導にあたる。
- hyper-QU を活用し、生徒理解を深め、学級経営、学年経営の一層の充実を図る。
- 生徒が取り組む過程を適切に評価し、失敗から学ばせたり、困難を乗り越えさせたりすることで自信と自覚を深めさせる。
- 一社会人として卒業していく生徒が身に付けるべき資質とは何かを考え、人を育てることの使命感をもって指導にあたる。
- ユニバーサルデザインを取り入れ、人権保護や多様性を尊重する視点に配慮する。

◆校務のDX化推進と教育環境の整備

【重点取組⑦】校務のDX化推進 生徒に向き合い、授業を改善する時間の創出

- 校務を見直し、積極的にDX化を推進し、選択と集中の意識を徹底する。校務のDX化により創出された時間を、生徒と向き合い、授業の質を向上させるために還元する。
- 「勤務時間内にできること」に最大限注力し、残業を減らす意識に転換する。
- 育業や看護休暇、有給休暇など、誰が休んでも滞らない職場風土を醸成し、仕事とライフスタイルの両立を目指せる環境を整える。
- 体罰、セクハラ、飲酒運転、個人情報の流出、信用失墜行為を厳に戒め、服務規律の遵守を徹底する。